

2023年度学校評価

1. 本園の教育目標

つよいからだとかきらめないで頑張る心

めざす子ども像

- ・心身ともにたくましくのびのびと遊べる子ども
- ・人の話をしっかり聞き、自分の思いも伝えられる子ども
- ・いろいろな事に興味関心を持ち、最後まであきらめないで取り組む子ども
- ・自分の事を大切にし、まわりの人たちにも思いやりの持てる子ども

教育方針

- ・子どもの中に潜在している可能性を引き出し発展させ、バランスのとれた人格を育成する。
- ・「感性」「体力」「知性」を3本柱として、「規範意識の芽生え」を培う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①登園から降園まで担任がクラスの子どもたちと共に行動できるようにする。
 - ②遊びに集中できる環境をつくる遊びに意欲をもって集中できる環境をつくる。
 - ③通園バスの先発・後発があるので、その時差の対応をしっかりと行う。
 - ④教育課程を全職員で見直しを行い、年間計画を全体のものとする。
 - ⑤保育室の環境を見直し、子どもが主体的に遊び込める環境づくりに努める。
 - ⑥新任指導を計画的に行う。
- ・毎年数名の新規採用教員を迎えているが、人数が多いため、系統立てての研修が部分的にしか行っていない状況があった。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 登園から降園まで担任がクラスの子どもたちと共に行動できるようにする	A	通園バスの1便・2便を考慮して、クラス分けを行い。登園、降園時間を20分程度ずらすことにより、担任は登園から降園時間まで子どもたちとともに過ごすことができるようになった。
(2) 遊びに集中できる環境をつくる	B	・今年度も計画的に室内の遊具を増やし、室内でも子どもたちが興味を持って遊びに取り組む環境を作った。また、副主任がクラスを担当することにより、率先して理想的な保育室の環境構成を行い、他の担任のクラスのモデルとなった。
(3) 保育時間を1班と2班で時差をつけ固定させたことにより、今まで保育できていた時差をどう補うか	B	特別あずかり制度を新たに、開設し保育時間をずらした事により、保護者が送迎で不便を感じないように配慮した。 1班…13時50分～14時10分 2班…8時30分～9時10分 今年度と来年度は無料で実施する方向。
(4) 保育室を見直し、主体的に遊び込める環境を作る	B	子どもたちの室内での動線等も吟味し、室内での遊びを充実した。
(5) 新任指導を計画的に行う	C	府の教育センターで行われている新任研修に数回参加させることが出来た。しかし、園でのフォロー体制が十分に整えられなかったこともあってか、新任が1学期末で退職するという事があり、より綿密なフォローが必要であったと思われる。 今年度の新任教諭は5名（内年中の担任2名が1学期末で退職）残り3名は副主任とペアクラスで指導してもらった2名と、ベテランの職員を同じクラスに補助として入っていた1名であった。
(6) 図書室（絵本の部屋）を充実させ、絵本の貸し出しを復活させる。	A	コロナ禍に入って以来、休止していた図書の貸し出しを、新しい絵本の購入、ブッカー掛けなどにより充実させ、2学期より年長、3学期より年中、年少の絵本の貸し出しが復活し、子どもたちは、週1回の絵本の貸し出し日を楽しみにするようになり、絵本に興味関心を広げた。
(7) 行事（運動会・生活発表会等）の練習時、自分のクラスを離れて、他のクラスの応援に行くことを出来る限り少なくする。	C	学年でそれぞれの行事を支援するという文化がある。それにより、自分のクラスを離れて、応援に行くということが何度もある。もちろん、その間は他の職員がそのクラスの補助に入るが、その間の保育が途切れてしまう。そういった時間をなるべく少なくした、行事の在り方を考えたい。
(8) 行事等にアンケートをとり保護者の思いを知る	B	今年度も運動会・作品展・生活発表会などの行事についてアンケート調査を行い。いろいろな保護者の思いを知ることが出来今後の活動に生かすことが出来た。今後、行事だけではなく、外部評価という形で、アンケートを依頼していく必要がある

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>今年度は、保育時間を2部制にすることで、1班は9時30分、2班は10時10分に各クラス全員揃って出欠確認を行い。保育がスタートするという流れが出来きた。昨年度の、園バスでの園児置き去り事故の教訓から全国的にも出欠確認が重要視されたということもあり、園の2部制への移行も必要なことであったと思う。</p> <p>職員配置では、昨年度の担任が多く退職したこともあり、学年のリーダー（副主任）が3学年とも担任することになった。副主任が担任として保育をしながら、自分の学年を年少は8クラス・年中は8クラス・年長は6クラスを見回り指導していくということに時間的にも難しさがあり、年中2クラスの新任教諭が年度途中で退職してしまうということがあった。副園長、主任等で相談にのり、支援してきたが、新任のフォロー体制に問題があったように思う。また、担任と管理職をつなげる存在としての副主任の業務も、担任との兼務の中では業務量が多く、リーダー会議（副園長・主任・副主任）も定期的に行うことが難しく、その会議を受けての職員会議も今年度は、月一から学期一と激減してしまった。会議が減ったことにより、日々の活動のねらいや重要なポイントを全職員で共有することができず、ただ、行事をこなすという事が多くなり、若い職員には、活動のねらい、指導の仕方が正しく伝わっていなかった事も多かったのではないかと思われる。経験の少ない担任が多い中では、非常に重要なことであるが、そのことに多くの時間をかけることが出来なかったことが残念であった。</p>

◎「3.4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
個々の子どもに寄り添った保育を行う	個々の子どもについての情報交流を行い。肯定的なかかわりを行う。
教員の質の向上・研修の充実	新任研修にとどまらず、他の職員にも積極的に研修に参加できる体制を作りたい。 日々の保育や、行事について、しかり話し合い、なんのためにどんな目標をもって行う活動であうかという事を共通理解して、保育を進められるようにしたい。 各担当マネージャーがリーダーシップを発揮し、それぞれの学年間での問題や課題を取りまとめ、次の保育に生かせるようにしたい。
保育内容の充実	通年の意識にとらわれず、子どもにとって何が必要で何を大事にするかという視点で保育内容の充実に努めたい。

6. 学校関係者の評価

特に、指摘するべき事項はなく、妥当であると、認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。